

2011

JAN. 1 vol.29

東京成徳広報



大学男子バスケットボール部 念願の2部へ



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

P 3	巻頭言 砲声の鳴るほうへ 理事長 木内 秀俊	
P 4	学園の動き 子ども学部の将来構想	子ども学科長 永井 聖二
P 5	教育研究活動 商店街にぎわい再生プロジェクト 「こどもサポーター」研修の開始 観光文化学科 1年目の挑戦	経営学部 子ども学部 人文学部
P 8	ひと 活躍する卒業生	棋士 広瀬 章人さん（平成17年高校卒）
P 9	社会交流 「ゆめ半島千葉大会」にボランティア参加	八千代キャンパス
P 10	国際交流 オーストラリア修学旅行 白石大学校留学生に聞く	深谷高校 人文学部
P 12	就職状況	
P 14	TOPICS 大学院 八千代キャンパス 十条台キャンパス 短期大学 中高一貫部 高等部 深谷高校 幼稚園 第二幼稚園	
P 22	クラブ活動	
P 24	入試カレンダー・お問い合わせ先	



TOKYO SEITOKU

学園のシンボルマーク「理想」と「若さ」を表すブルーの五本の柱は、五つの教育目標を「活力」と「勇気」を表したイエローの二本の柱は、学生・生徒と教職員、同窓生を象徴しています。そして、八つの柱が一体となり、東京成徳と学園に集う人々のヒューマニティーを作り上げる姿を表現しています。

表紙 大学男子バスケットボール部 念願の2部へ

平成9年創部の大学男子バスケットボール部は、第86回関東大学バスケットボールリーグ戦で3部準優勝を果たし、11月9日～11日に行われた2部立教大学との入れ替え戦にも勝利。念願の2部※昇格を果たしました。写真は本多選手(4年生)のシュート

2部：法政大学、中央大学、関東学院大学、神奈川大学、白鷗大学、国土館大学、日本体育大学、順天堂大学、駒澤大学



砲声の鳴るほうへ

理事長 木内 秀俊

構造改革の必要性

今わが国は混沌とした社会状況にあります。経済の停滞は約20年近くとなり、政治の分野でも政権交代によって期待された変化も期待薄となった現在、社会に閉塞感が漂うことも否めません。しかし細かく見れば、学術・スポーツ・アニメなど様々な分野で頑張っている人々もいることは事実です。だがそうは言っても昨年のアジアスポーツ大会では、金メダル獲得数では隣国中国、韓国の後塵を拝して第三位に終わったのは寂しい限りであります。何か現在の国の勢いを示している気がいたします。

なぜこのような事態になったのかは、様々な要因が複合しているものと思えますが、その一つとして人々の間の日常的な社会的連帯の希薄化が上げられると考えます。米作農業が基幹産業であった時代には、水利利用などを通じて村内での

共同作業が日常的に必要とされており、その作業は基本的に金銭で代替されるものではなく、原則として労働の提供という形で行われていたと言えます。したがって様々な形で労働のネットワーク（それは葬式でも手伝いの家の役割が決まっていた（？）が作られて、相互のコミュニケーションに繋がっていったと考えられます。そのコミュニケーションは基本的に家単位であることから、個人にとって多少の強制を伴うものであり前近代的な側面と見られる点も多く持っていたと思えます。この農村の構造は戦後の工業化の中で弱体化し、一時企業がコミュニケーションの核となるような状況もありました。しかし経済のグローバル化や発展途上国の追い上げにあつている現在では、非正規労働者の増加などに見られるように企業のコミュニケーション機能も崩壊しつつある状況と思

ます。

このような状況を受けて「第二の開国」を唱える向きもありますが、江戸から明治に至る時とは一面で正反対の点があると思えます。抜本的な構造改革を果たして世界の中心で独立国として伍していかなければならぬという点は共通していますが、明治維新を推進した主だった人材は30歳前後と若い層でした。現在の政治家層とは一世代以上も違うのでは無いでしょうか。そして近代化によって人口が増えて行く時代と少子高齢化によって人口が減少することが見込まれる時代の違いもあります。改革の必要は同じでも対応はおのずから異なってくると思えます。我々はそれを冷静に分析し、行動する必要があります。

最重要課題を見極める

ナポレオンの最終的な敗北を決めた戦闘に「ワテルローの戦い」があります。エルバ島を脱出して皇帝に復位したナポレオンがイギリスとプロシヤの連合軍と戦って敗れた戦いです。この時ナポレオンは当初プロシヤ軍を撃破したものの完全ではなく、グルーシー将軍に一軍を率いさせプロシヤ軍を追尾させました。そしてナポレオン自身は

ウエリントン将軍率いる英国軍とワテルローに対戦し、当初優勢に戦いを進めていました。ところがその戦いの砲声を聞きつけたプロシヤ軍が戦場に駆けつけ、ナポレオンは敗北することになったのです。もしプロシヤ軍ではなくグルーシー軍が戦場に駆けつけたらばナポレオンは勝利していたかもしれません。グルーシー軍は「砲声の鳴るほうへ」という単純な原則を実行できず、ナポレオンのプロシヤ軍を追尾せよとの命令に盲従したため全軍の敗北を招きました。あまりにナポレオンの才能が抜きんでいたため、他の將軍達には目の前の事態に臨機応変に対応する力に欠けていたのかも知れません。

我々は戦後、個性を尊重してきましたが、それだけでは現代の世界的な競争に勝つことは出来ないと考えます。今の時代は心を澄まして日本にとって重要な課題Ⅱ「砲声の鳴るほう」を見極める時期であると思えます。そして学生・生徒の皆さんが、重要課題を見極める力を養いつつ、お互いに協力して敢然と解決に取り組んでいく意思を持てば、いづれ今の閉塞状況が打ち破られる時がくることを確信し、若い力に期待したいと思えます。

子ども学部 の将来構想

子ども学部

子ども学科長 永井 聖一



発足して8年目を迎えた子ども学部からは、すでに300名近い卒業生が社会に巣立ち、さ

まざまな分野で活躍する姿が見られる。東日本では唯一の「子ども学部」として出発したこの学部は一定

の社会的評価を得たといえようが、これまでの成果と問題点を検証し、この間の諸条件の変化をふまえて次の段階を切り開く方略を検証すべき時期に直面しているようにも思う。

子ども学部は、複雑化する現代の子どもにかかわる問題を学際的に研究・教育し、子どもの成長に貢献できる専門職員の養成を目的とする。現代の子どもを総合的に理解し、子どもたちや子育てを支援することができると専門的な力量を身につけた卒業生を世に送り出すこと、それが子ども学部の主たる目的である。

これまでの就職状況をみると、さまざまな子どもにかかわる職業のうちで、保育士として職を得る者が最も多く、これに幼稚園教諭として就職する者が続いている。特筆すべきは公立保育所の保育士として採用される者が多数に及んでいることとであり、平成22年3月の卒業生約100名のうち、正規採用の公務員として保育士に採用された者が30名に及んでいる。

昨今の経済状況のもとで高等教育修了者の就職は厳しいが、保育、幼児教育関係の労働市場の需給は比較的良好である。しかし、量的な面だけではなく専門性と見合った就職の「質」が問われるのも当然であるから、こうした実績を維持していくために今後も指導の充実を図って入学者や保護者の期待に応えるよう努めていきたい。

また、より本質的な課題としては、子どもを支える現代の専門的職業に求められる資質、力量とは何かをさらに明らかにし、その成果を学部教育に反映させることが求められる。改めて指摘するまでもなく、

学部の社会的な存在意義は、そこでどんな研究が展開され、いかなる人材が社会に送り出されて明日の社会に貢献しうるにかかっている。とすれば、子ども学という新しい学際的研究分野での具体的な研究の蓄積と、その成果を学部教育の充実に結びつける努力が、これまで以上に必要とされることは当然である。

保育や幼児教育の分野において、子ども学部がこれまで以上の実績をあげることがめざすのはいうまでもないが、それとともに小学校教員や子どもを対象とする社会教育の指導者、子ども関連の教育産業などで活躍する人材など、養成の対象となる専門的職業の範囲を横断的、縦断的に広げることにも課題になる。具体的には小学校免許が取得できる課程を学部内に設けることなどがすでに計画されているが、この構想を実現させ軌道に乗せることは当面の重要な課題になる。

初等教育の分野で活躍する人材の育成は、子ども学部発足以来その研究と教育の視野に含まれてはいたが、カリキュラムの過密などの事情から、玉川大学通信教育部との連携といった方法が採られてきた経緯がある。玉川大学との連携プログ

ラムの中でも、すでに10名余りの卒業生が小学校の現場に職を得ているが、子ども学部が小学校教員養成の課程認定をうけることで、この分野にもさらに多くの卒業生が活躍することが期待される。

そのことはまた、発達の連続性を保証しつつ多様な機能的教育主体とも連携をめざすという、今日的な保育・幼児教育分野における担い手の、専門的力量的向上に資するものともなる。子ども学を冠した多くの学部、学科が急増する状況のもとで、「子ども学部」の特徴を生かした研究と専門的職業人の養成を、さらにいっそう充実したものにしていきたいと願っている。





今日、地域が直面する問題や課題はますます複雑かつ多様化しており、そのような問題解決に対して地域の知的活動の拠点として大学が主体的に関わっていく必要が出てきています。特に、街づくりを進める上で、大学は、地域にとって貴重な資源であり、重要なパ

経営学部教授 大貫学



商店街にぎわい再生プロジェクト

経営学部

トナーであるといえます。

また大学にとつても、地域を教育のフィールドとして活用することにより、特色ある実践的・効果的な教育を行うことができます。その意味では、地域連携活動は、教育活動、研究活動と並んで、大学の重要な機能として位置づけられるようになってきており、このような地域への貢献を通じ、地域における存在価値・評価を高めることが求められてきています。

そのような視点から経営学部では、北区で唯一の大学として北区内政推進課にアプローチを行い、区内商店街の調査についての共同研究を行うことの合意に達し、「東京都北区商店街にぎわい再生プロジェクト推進事業に関する協定書」の締結に至りました。

今年度は、その協定書に基づき、北区堀船地区の「梶原銀座商店街」を対象として調査を実施し、当該商店街再生のための総合的かつ計画的な支援を検討していきます。

調査の主要なポイントは下記のとおりです。

① 梶原銀座商店街の市場ポテンシャル分析（商圈設定）

メッシュ統計（図参照）からハフ

の商圈確率モデルで商圈設定し、その市場ポテンシャルを定量的に計測し梶原銀座商店街の商圈上の課題を客観的に判断する。

② アンケート調査の実施

商圈内居住者へのアンケート調査を行いその買い物行動とニーズを明らかにする。

③ ヒアリング調査の実施

来街者へのヒアリング調査を行い商店街利用上の不満・満足を明らかにする。

なおヒアリングは学生に実践させる予定であり、フィールドを活用した実践的な教育効果も期待できる。

④ 梶原銀座商店街にぎわい再生への提案

①②③の調査分析から抽出された課題解決策を検討し、にぎわい再生への具体策を提案する。

経営学部では、今後も、このような大学の所有している知的資産を活用した地域貢献を積極的に展開し、真に地域社会に開かれた大学を実現していきたいと考えています。

「子どもサポーター」研修の開始

子ども学部

子ども学部長 深谷 昌志

「子どもサポーター」の仕組み作り

子ども学部では、文部科学省の支援を得て、平成20年度から東京学芸大学などの6大学と連携し、「教育支援人材の育成事業」に取り組んできました。これからの教育は教師や保護者の力だけでは対応できない。といって、教育問題の部外者の助力には限度がある。そこで、一般の市民や学生に教育についての研修を積んでもらい、その人たちに一定の資格を与えて、教育のサポーターになつてもらおうという計画です。平成20年以降、子ども学部は①北区、②台東区、③長野県軽井沢町、④宮城県利府町の教育委員会と協力して、住民を対象としたサポーター養成講座を試行してきました。そして、平成22年度に入ってから、他大学での試行や本学の取り組みを参考にしながら、6大学間で話し合いを重ね、「子どもサポーター制度」の仕組み作りを検討してきました。

現在、①サポーター資格の取得に12コマの講義受講を求め、②「こどもサポーター」の活動範囲が広いので、「アフタースクール」や「特別支援教育」などに目的をしぼって研修を実施する、③「こどもサポーター」を基礎資格とし、その上級資格として「こどもサポーターコーディネーター」や「教育支援士」を考えるなどの骨子が固まってきました。

学生対象の東京成徳学園版「こどもサポーター制度」

6大学のこれまでの試行の中で、



学生を対象とした「こどもサポーター研修」を展開し、人気を集めている事例がありました。そうした活動を参照して、本学でも、これまでの社会人対象とは別に、学生を対象とする「こどもサポーター研修」を計画してみました。

研修といっても、社会人と学生とは意味が異なります。社会人の場合、実世界の体験を積んでいるだけに、最新の研究情報を歓迎してくれます。それに対し、学生は講義を聞く生活を送っています。実体験に乏しい人たちです。12コマの講義も、学生にすれば2単位の授業以下の長さです。そこで、学生の研修では講義の枠を減らし、実体験を積む作業に一定の時間を割くことにしました。具体的には、12コマの内、



開講式 定員を超え盛況の中はじまる

①フィールドワークをもとにしたレポート提出に4コマ、②実技指導的な領域に4コマ、③講義は4コマとする形を考えました。そして、12月11日と18日の土曜日の午後を使い、十条台キャンパスでの開催を計画しました。

この「こどもサポーター制度」は学生のボランティア活動を支援する動きですので、子ども学部の学生に限定せず、「オール成徳」の活動にしたいと、講師構成を全学的な規模にすると同時に、全学的に学生の参加を呼びかけました。

11月末現在、十条台キャンパスの短期大学だけでなく、八千代キャンパスからも多くの学生が参加する予定で、定員35名のところになんと64名が受講を希望してきました。特に八千代キャンパスでは八千代市と連携し、サポーター制度の積極的な活用を図ると聞いております。

今年度の先導的な試行結果をふまえ、実施時期や研修内容などの検討を行い、次年度の計画を早めに固めたいと思っています。なお、次年度は本学の学生や卒業生だけでなく、他大学の学生や地域の実践家などの参加を求め、開かれた研修を目指したいと思っています。

観光文化学科1年目の挑戦

人文学部

観光文化学科長 秋山 秀一

平成20年10月に観光庁が発足し、日本も本格的に「観光立国」の実現に向けて、国を挙げて進むことになりました。ここ数年、全国の大学に観光系の学部、学科が増えてきたのも自然の流れで、今後益々大学における観光教育の重要性が高まっていくにちがいありません。今、まさ



フィールドワーク (香取市佐原)

に、いろいろな分野で「観光の分かる人」が求められている、そんな時代に突入したといえます。

本学にも観光立国日本の一翼を担うべく、昨年4月、人文学部観光文化学科が新設され、「観光文化に関する教育研究を行い、多様かつ個性的な観光を創造する観光デザイン力と社会人基礎力を修得した人材の養成を図る」ことを教育目的に掲げ、観光を核にした地域振興に貢献できるような人材を育てていくことになりました。

その土地に暮らす人が自ら地域の文化や地理、歴史、生活習慣を理解し、それを生かした着地型の地域観光を創造する意志と実行力をもった人材を育成することにより、観光立国の実現とこれからの観光を支える基盤となる学びの創造をめざしています。

本学で学ぶことにより社会人基礎力と多文化理解に基づく観光デザイン力とを備えた人材は、観光のみならず、社会の広い分野で活躍する道が開けるものと確信しています。



新鎌ヶ谷えきフェスタに参加

観光を基礎とする「まちづくり」など地域の開発は、それぞれの地域に固有の独自の文化や歴史を抜きには考えられません。

特に力を入れている科目に「フィールドワーク」があります。これは、学生が教員と共に自ら観光の実体験を積み、を通して多様な文化を理解するとともに、独創的な観光を構想する能力を培うものです。

入学早々、オリエンテーションを兼ねて、日光へのフィールドワークを実施し、そのほかにも日帰り

身近な鎌倉、佐原へのフィールドワークも実施しました。

また、成田スカイアクセス開業日の7月17日に鉄道4線が交差し、アクセス特急が停車する新鎌ヶ谷駅南口交通広場で実施された《新鎌ヶ谷えきフェスタ》に、「東京成徳大学観光文化学科企画コーナー」としてイベント参加し、新しい旅の提案や、鎌倉でのフィールドワークの成果などを発表しました。

2月11日には、鎌ヶ谷市で実施されるまちづくりに関するシンポジウムにおいて、基調講演の後、本学科の学生数人がパネリストとして登壇し、意見を述べる予定になっています。

こういった経験を積むことにより、地域観光振興の一翼を担うとはどういうことなのか、実体験として学生たちは学んでいくことができると考えています。

なんといっても、これからの観光の担い手は若者です。若者を生かした観光振興の重要性を本学科の教員は強く認識しており、強い気持をもって学生とともに、教員一同、日々研究・研鑽し、教育にあたっています。

活躍する卒業生

棋士 広瀬章人さん

高校平成17年3月卒業

現役大学生で初めての快挙！
王位を獲得

本校在学中からプロの将棋士を志す一方で、早稲田大学教育学部に進学。

一昨年は新人王戦優勝、昨年9月には七大タイトルのひとつ王位戦を制し、大学生でありながら第51期王位とられました。予選では渡辺明竜王、羽生善治名人に勝利し、タイトル戦では3期王位を保持している深浦王位に挑戦し4勝2敗で見事に勝利し、現在七段に昇段。棋士、学生として多忙な毎日をすごされています。

Q. 将棋をはじめられたきっかけ、プロへの道は

父が大学の将棋部に在籍していたからでしょうか、4歳の頃から父と兄の対局に興味を持ちました。小学3年生の時に、父が札幌に転勤になったため市内の将棋センターに

通い指導を受けていました。当時の先生によると、私は負けるとよく悔し涙をながしていたそうです。6年生の時、プロ棋士の養成機関である奨励会に入会、月2回飛行機で上京し将棋会館に通いました。中学生の時、埼玉県に引越し、父親の薦めと通学の便利さで東京成徳高校を受験しました。東十条駅から徒歩十分の通学は自然の内に同じ徒歩仲間ができて楽しい語らいのひとつでした。1年生で三段となり、いよいよ登竜門となる四段をめざす三段リーグに入りました。三段リーグは半年に1回行われるもので人数は約30〜40人、計18回戦行い上位2人しかプロになれないという過酷



木内校長も笑顔

な戦いでした。なにしろ四段にならないと日本将棋連盟のプロ棋士として認められないのですから皆必死です。大学進学が早く決定し、3月の高校の卒業式の翌日には最終の対局が2試合残っていました。3年間通った東十条駅からの道を「この道を歩くことも今後はないだろう」と思いながら卒業式に臨んだ記憶があります。幸い翌日の対局で連勝し、リーグ一位の成績で4月1日に四段・プロとなり大学生活との両立をはじめました。

Q. 学業との両立は

プロ棋士を目指す高校生の中で大学に進学する方は少ないようです。両親のプロに専念したらという意向もありましたが、私の場合、周りの友達が皆大学受験をするというのが決め手でした。好きな数学をもっと学びたいと思い数学科を志望しました。最初の内は「二足のわらじ」の大変さを痛感しかなり悩みましたが、ゼミの先生が将棋に理解があったので感謝しています。ようやく卒業できるので、今春からは将棋に専念できます。

Q. 今後の目標と東京成徳の後輩に
ひと言

初めてのタイトル戦第1局では、あまりにも大勢のカメラマンに囲まれて将棋の駒を並べるのに手が震えるほど緊張した記憶があります。

まず、折角獲得した王位のタイトルを防衛すること、さらに、一つでも多くのタイトルに挑戦していきたいと思います。昨年11月に王位就任式があり、その日が東京成徳学園の創立記念日だったと聞いてびっくりです。高校時代に戻りたいという友人が大勢います。今は気がつかないかもしれませんが、自分のやりたいことを見つける大切な時期、限られた時間を大切にして楽しく過ごして欲しいと思います。



恩師佐藤先生と、なごやかに一局

社会交流

八千代キャンパス

「ゆめ半島千葉大会」

知的障害者サッカーに

ボランティア参加



知事からの感謝状を手に：左から大重さん、新通さん、張ヶ谷さん、伊藤さん、小野さん

「2010ゆめ半島千葉国体（第65回国民体育大会）」がこの秋、37年ぶりに千葉で開催されました。国体において、第10回全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」が10月23～25日まで県内各地で開催され、知的障害者サッカー競技種目

に大学八千代キャンパスの女子サッカー部員5人が競技補助員として参加しました。

これは、健康・スポーツ心理学科の木幡教授が、千葉県知的障害者サッカー連盟主催の障害者対象サッカー教室にボランティアとして協力していた関係から、全国大会への協力依頼がなされたものです。

大会での役割は、選手交代や得点時の放送はもちろん試合運営など大会全般の放送業務でした。ボランティアに参加した学生たちは、事前に5月の関東大会でのリハーサル

経験を踏まえ、本大会では緊張感を持ちながらも、マイクを手に一言ひとこと丁寧にも明瞭に場内アナウンスを行いました。試合中、選手交代と得点の場面が重なり、迅速な放送を迫られて小さな間違いはありましたが、落ち着いた放送で観客に聞き取りやすく、関係者からも「安心して聞いていられる」と高い評価を得、無事大役を果たすことができました。

緑の芝生を縦横に走りまわる選手たちは、技術やプレースピード、ボールを追いかける迫力も健常者のサッカーゲームと見間違えうほどの試合を展開していました。ボラン

ティア学生にとっては、活動を通して試合を直接観戦できたことは、確実に各自のスキルアップにつながり、また、全国大会を支える立場で運営に関係できた価値ある経験を今後の活動に活かしていくことを期待しています。

大会終了後、5人のボランティア活動に対し千葉県知事から感謝状が届けられました。

また、本学体育館は国体において女子バスケットボール練習会場として提供され、大学を挙げての協力となりました。

ボランティアに参加して

いつもボランティア活動は、障害者の人と直接触れ合うことが多かったのですが、今回は初めて大会の放送運営をすることになりました。大会の規模も大きくミスが許されないものでしたが、誰もが経験できる活動ではないので非常に良い体験ができました。

（福祉心理学科3年 張ヶ谷愛）

自分の中で当初は今回のボランティアを甘く捉えていた部分がありました。職員の方の動きや選手達の真剣な表情に接し、また、失敗について指摘を受けたことで改め

て自分達が引き受けた仕事の重要性を認識することとなりました。

（福祉心理学科3年 新通愛美）

今大会のボランティアに参加して、ボランティアの大変さや責任の重さを学び、精神面で大きく成長出来たと思います。また、試合自体からも技術や戦略など学ぶことがたくさんあり、障害の有無に関係なくスポーツは誰もが楽しめる、たくさんの人達と繋がるきっかけになるものだなと改めて感じました。

（健康・スポーツ心理学科2年 小野萌子）

障害者スポーツ大会のボランティアを経験して、本当によかったです。それは、障害者のハンディキャップを感じさせない力強いプレーや一生懸命な姿を見ることができたからです。自分の未熟さに気づき、自分ももっと頑張らなきゃという気持ちになりました。

（健康・スポーツ心理学科2年 大重友美）

大会の放送は初めてで不安もありましたが、リハーサル大会での練習によりスムーズに進行させる事ができました。緊張感もあり、大会の重要な仕事だったのでとてもやりがいのあるボランティアで、とても良い経験ができたと思います。

（健康・スポーツ心理学科2年 伊藤美咲）

国際交流

深谷高校

オーストラリア修学旅行

Kingswood High School
(キングスウッドハイスクール)
と交流



上：手作りブーメランの作成

左上：折り紙を教える

下：最初のセレモニー



10月21日～26日（第1班）、22日～27日（第2班）に2年生のオーストラリア修学旅行が実施されました。今年も雨も多く、肌寒い日もあり、現地でもめずらしい悪天候でしたが、生徒達は、自然や文化に触れる多くの感動を得たようです。

なかでも、キングスウッドハイスクールを訪問し、日本とオーストラリアの生徒で組んだバディで過ごした文化交流の授業などは、言葉に苦勞しながらも折り紙を教えたりと互いの文化を知り、発見のある貴重な国際交流ができました。

言葉は通じなくても

2年A組 長谷川由貴さん

私が修学旅行で行った学校交流でお世話になったのは中学2年生のネルちゃんという女の子でした。学校交流を経験する前は、どんな子なんだろう、その子とちゃんとコミュニケーションをとれるだろうかと不安ばかりのしかかり、心配でした。

いよいよ、ネルちゃんと対面します。心配と不安が交互に心臓に重くのしかかってきます。ついに、ネルちゃんと対面をしました。ぎこちない挨拶から始まり、思った通り、最初は何も喋れず、ずっとどうしようと考えながらウエルカムセレモニーを過ごしました。モーニングティーの時間の時も多少喋ることはできました。YesやNoと答えるので精一杯でした。そしていよいよコミュニケーションが大事になるアクティビティが始まりました。最初はブレイクダンスという踊りを踊りました。疲れたりもしたけど、とても楽しく笑顔でダンスが踊れて良い思い出が作れました。次にブーメランペイントをやりました。ブーメランに二人で絵を描いたりするもので、そこではいろいろ困難があ

りつつ、とても良いものができました。世界に一つしかない二人で作ったブーメランを飛ばし合い、楽しかったです。ここでも笑顔が絶えないぐらい楽しく出来て良かったです。最後に折り紙です。一番これが困難でしたが、ネルちゃんはとても楽しそうに嬉しそうに私も良かったと安心しました。そして本当に最後のフェアウェルセレモニーをやり、初めて経験する学校交流は終わりました。

終わって分かったことはどんなに言葉は通じなくても楽しい、嬉しいという気持ち、笑顔は世界共通なんだと実感しました。私はとても英語が苦手で、なおかつ大嫌いな私でしたが、今回は楽しく笑顔で英語を話すことができ、とても良かったです。初めての学校交流の経験は一生忘れませんし、一生の思い出です。

文化の違い

2年B組 鈴木美宇さん

私は今回オーストラリアのキングスウッドハイスクールに行つて、沢山の交流が出来たと思います。日本とオーストラリアの文化の違いや教育の違い、学校生活の送り方など違いを知ることの出来る良い

経験となりました。

まず、私が一番日本と違うなと思ったところは時間の割り振り方です。日本ではお茶の時間などはなく、休み時間も短いけれどオーストラリアは違って、そのような時間があることがわかりました。日本と比べると、時間もゆつくりというような感じがしました。

次に気づいたことは、教室の移動方法です。日本では先生が教室を授業ごとに移動するのが普通だけれど、オーストラリアでは生徒自身が毎時間移動しているということですね。先生もその授業の教室が自分の部屋のようになっていることもわかりました。

そしてなにより思ったことは、とても大人っぽいということです。今回一緒に行動をしてくれたのは中学生だったにもかかわらず、見た目も行動も内面に関しても日本の中学生より大人だと感じました。上下関係も厳しくなく、とても仲が良さそうで良いなと思いました。日本は上下関係が厳しい面もあるので、オーストラリアはおおらかな雰囲気を感じました。

んの交流をすることによって、日本とオーストラリアの違いや片言ではあるけれど、英語を使って会話をしたりして、国は違っても言葉は違っても友情は芽生えるんだなと思いました。日本の折り紙を教えてあげた時に、楽しそうに一緒に折ってくれている姿を見て日本の文化を教えることが出来て良かったと思いました。

初めてのオーストラリアだったけれど、自分にとってプラスになる出来事が多かったし、楽しいことも多かったもので、本当に行けて良かったなと思いました。また機会があればオーストラリアに行きたいと思いました。

大学八千代キャンパス

白石大学校留学生に聞く

平成19年に協定を締結し、交流を深めてきた韓国・白石大学校より9月から2月まで、交換留学生として人文学部で学ぶ、語学部日本語専攻3年金修男（キムスナム）さん、同2年梁素禎（ヤンソジョン）さんに授業や生活のお話を伺いました。

Q: 日本に留学の動機は？

「日本の文化や大学を体験し日本語を勉強したかった。（金）」「韓国で

は学べない生活会話や文化を学びたかった。（梁）」

Q: 興味を持った授業科目は？

「『ハンゲルの世界』（李先生）の授業で日本人の学生がどのように韓国語を学ぶのかがとても参考になります。（金）」『伝統文化（装束）』（青柳先生）の授業に興味を持っています。（梁）」

Q: 困ったことは？

「日本の昔のことがわからないので、授業で課題が出るとわからないことがあります。（金）」

梁さんは、日本伝統文化学科の外研修で「文楽」を鑑賞し、感想を日本語で上手に表現されています。

Q: 日本へ来てイメージが違ったことはありますか？

「ありません。（金）（梁）」

韓国では、日本の様子が正しく伝わっているということなのでしょいか。因みに日本のお気に入りタレントは「加瀬亮さん（金）」と「小栗旬さん（梁）」だそうです。

Q: 将来は何になりたいですか？

「まだ考えていませんができれば日本と関係がある仕事に就きたい。（金）」「日本の企業で日本人に韓国語を教えたい。（梁）」

Q: 休日の過ごし方は？

「一人で買物に行ったり、友達と遊んだり、日本の観光をしています。（金）」新宿には母国の友人もおり、休日を楽しんでいるようです。「課題をしたり、インターネットをよく把握できていないので、課題が出るで大変で休日も使っているそうです。」

二人とも留学生生活を元気に過ごしているまじめな学生でした。東京成徳の学生は、女子は「活発」、男子は「おとなしい」印象を受けたとのこと。将来、本学で学んだことを活かして、韓国と日本の「架け橋」となり両国の親善と交流のために役立ててくれることを望みます。



左から、水谷助教、梁さん、金さん、李教授

就職状況

平成22年度の就職環境は昨年にも増して厳しいものとなっております。とくに一般企業は全般に採用者数が縮小しており、学生もかなりの苦戦を強いられています。内定者数はほぼ昨年同時期(11月)並で推移していますが、決まっていない学生はこれから年末年初にかけても就職活動を続けざるを得ない状況となっております。

短大の就職状況

短大の一般企業向け就職は四年制大学よりやや遅く動き出しましたが、それでも前述の厳しさは不変です。11月時点で言語文化コミュニケーション科の就職希望者の半数以上が未決定の状態で、現在も諦めることなく積極的に就職活動を続けています。大学側も最新の求人情報の提供等の出来る限りのサポートを行っています。

本年の幼児教育科の2年生はその95%が保育士あるいは幼稚園教諭を目指しています。この分野は例年秋口以降に採用活動が本格化しており、現在(11月)が最盛期です。学生も積極的に活動して来ており、現在までの処、内定状況は順調に推移しています。

平成22年度 短大就職内定先(一部)

ANA FESTA(株)／(株)アズノウアズ／コーセー化粧品販売(株)／スターツピタットハウス(株)／大昭和紙工業(株)／(株)阪急阪神ホテルズ／足立つくし幼稚園／板橋富士見幼稚園／かんしち幼稚園／チェリー幼稚園／豊四季幼稚園／みぬま幼稚園／加須保育園／キッズタウンうきま／鴻巣市保育士／品川区保育士／芝高木保育所／西東京市立みどり保育園／知的障害者施設育成会 等

内定者インタビュー

言語文化コミュニケーション科



(株)阪急阪神ホテルズ内定 広島 亜紗美さん

Q. どのように業種や職種を絞りましたか？

人と接する仕事が好きで、将来は接客業に就こうと決めていました。そして、1年生の後期の授業でホスピタリティについて学び、私自身もお客様に最高のホスピタリティを提供するような仕事に就きたいと思い、また一流の接客方法を身に付けたいと考えてホテル業界を選びました。

Q. いつ頃から活動を始めましたか？
私は、1年生の12月頃から、ホテル

業界に興味を持ち始めました。ホテルの仕事について詳しく知るために、また自分がホテルに向いているかを確かめるために、2月から1ヶ月間インターシップに参加して実際にホテルの仕事を経験しました。その後実際の就職活動は、ホテル業界を中心に3月から本格的に始めました。

Q. この為に特に力を入れた学校の授業は何ですか？

観光を中心に学んで、その中でも特にホスピタリティ論に力をいれました。接客業に必要なホスピタリティを詳しく学ぶことが出来ました。授業で学んだことを実際にアルバイトで活かすことができ、その後の就職活動でも、非常に有益でした。

Q. これからの抱負を

今後の抱負としては、自分がホテル業界に決めた時の初心を忘れずに、一人のホテルウーマン(候補生)として、礼儀正しく秩序を持って、残り少ない学生生活を有意義に過ごしたいと思えます。

大学の就職状況

人文学部では本年度の就職活動で目立ったのが「早すぎる就活・長すぎる就活」だったように感じられます。

一部の外資系企業やベンチャー企業などを中心に、早くも3年生の夏頃から採用活動が始まり、本学にも就活を始める学生が出ていました。しかしながら、景気悪化で採用数が減少するなかで、企業は「買い手市場」のチャンスを活かして「出来るだけ優秀な学生を厳選採用」しようとするあまり、結果的に「何社受けても、内定がもらえない」という、学生だけにしわ寄せが来てしまうような、気の毒な状況がありました。この問題を改善しようとする政府・企業団体などの動きに期待するとともに、こうした厳しい就職競争を勝ち抜き、さらに長いキャリアライフを主体的に生きていく力を養うため八千代キャンパスで実施している「TSU就活力パワーアッププログラム」を更にパワーアップして実行していかねればならないと決意を新たにしています。

11月時点、就職状況はほぼ全国平均の水準です。福祉・サービス・運輸などの業種や、不況の中でも伸びている企業、また依頼に応じて求人を出してくれた企業など、求人「キャリアアコナー」にある「ことを学生にきちんと伝えて、卒業までには、何としても全国平均を上回る水準にアップしていきたい



人文学部臨床心理学科
鈴木 美穂さん
(株)西ノ宮 内定

内定者インタビュー

平成 22 年度 大学就職内定先 (一部)	
〔人文学部〕	近畿日本ツーリスト(株)／木村実業(株)／新日本瓦斯(株)／総合警備保障(株)／東京ディズニーランドホテル／(株)ヨドバシカメラ／トヨタカーローラ福島(株)／陸上自衛隊／(福)双樹会／(福)大成会 等
〔子ども学部〕	(株)赤ちゃん本舗／(株)クレヨン／(株)サイサン／ミキハウスグループ／リそなグループ／清泉幼稚園／浦和つくし幼稚園／東京成徳短大附属幼稚園／北区保育士／杉並区保育士／熊谷市保育士等

Q. 就職活動はいかがでしたか？
3年生の10月頃から就活をスタートし、内定が出たのが4年の11月半ばと一年以上の就活期間だったのでもとても長く厳しかったというのが実感です。

Q. 就職活動はどのように進めたのでしょうか？
エントリーした会社の数は150社程度で、面接まで進んだのは10社でした。筆記試験で落ちた会社が多かったのですが、知名度が高く応募者の多い企業ではSPIもさらにひねった問題が出されるので、日頃から時間をかけて準備することが大切だと思いました。また私は、4～6月に第一志望と考えていた会社に集中しすぎたあまり、「志望先を広げたほうがいいよ」というアドバイスを耳を傾ける余裕がもてなかったのが、今思えば長期間の就活に繋がってしまったように感じます。

Q. 就活を振り返って、後輩の皆さんにアドバイスをお願いします。
面接ではありのままの自分を見せることが大事だと思います。私は、内定を頂いた会社の最終面接では、リラックスして臨め、あまり緊張せずに笑顔で話すことが出来ました。また、やる気を見せることもとても大事だと思います。

Q. どのようにならうと目指しましたか？
2年生の夏頃から、幼稚園教育要領や一般教養を少しずつ勉強するようにしていました。本格的に始めたのは3年生の冬です。一般教養の苦手な科

Q. 就職活動は大変ですが、キャリア支援担当の人たちからのアドバイスがとても役立ちました。皆さん最後まで諦めずに頑張ってください。
就職活動は大変ですが、キャリア支援担当の人たちからのアドバイスがとても役立ちました。皆さん最後まで諦めずに頑張ってください。



子ども学部子ども学科
土田 絵梨さん
江東区立幼稚園 内定

Q. いつ頃から幼稚園教諭になろうと決めましたか？
幼稚園の頃から幼稚園教諭になることが夢でした。その後中学、高校と進んでもその気持ちと子どもが好きということが変わらなかつたので、この大学に入りました。

Q. 公立幼稚園教諭を目指す皆さんへアドバイスをお願いします。
公立幼稚園教諭の採用試験は、幼稚園の民営化の促進や退職者の減少から募集が少なく、非常に難しくなっています。しかし、就職につきたいと思うのなら、保育士採用試験も加えて、是非とも受けるべきだと思います。受験勉強には、辛いことや逃げ出したくなるのがたくさんあると思います。自分一人で孤立せず、同じ目的を持つ仲間と励まし合いながら乗り切ってください。皆さんをずっと応援しています。

Q. これからの抱負をお願いします。
これまで培ってきた経験や学んだことを基礎に、幼稚園教諭として日々幼児教育の向上に努めて行きたいと思っています。また、子どもたちのために毎日笑顔で元気一杯の先生になりたいと考えています。

Q. これからの抱負をお願いします。
これまで培ってきた経験や学んだことを基礎に、幼稚園教諭として日々幼児教育の向上に努めて行きたいと思っています。また、子どもたちのために毎日笑顔で元気一杯の先生になりたいと考えています。

Q. これからの抱負をお願いします。
これまで培ってきた経験や学んだことを基礎に、幼稚園教諭として日々幼児教育の向上に努めて行きたいと思っています。また、子どもたちのために毎日笑顔で元気一杯の先生になりたいと考えています。

Q. これからの抱負をお願いします。
これまで培ってきた経験や学んだことを基礎に、幼稚園教諭として日々幼児教育の向上に努めて行きたいと思っています。また、子どもたちのために毎日笑顔で元気一杯の先生になりたいと考えています。

Q. これからの抱負をお願いします。
これまで培ってきた経験や学んだことを基礎に、幼稚園教諭として日々幼児教育の向上に努めて行きたいと思っています。また、子どもたちのために毎日笑顔で元気一杯の先生になりたいと考えています。

Q. これからの抱負をお願いします。
これまで培ってきた経験や学んだことを基礎に、幼稚園教諭として日々幼児教育の向上に努めて行きたいと思っています。また、子どもたちのために毎日笑顔で元気一杯の先生になりたいと考えています。

Q. これからの抱負をお願いします。
これまで培ってきた経験や学んだことを基礎に、幼稚園教諭として日々幼児教育の向上に努めて行きたいと思っています。また、子どもたちのために毎日笑顔で元気一杯の先生になりたいと考えています。

Q. これからの抱負をお願いします。
これまで培ってきた経験や学んだことを基礎に、幼稚園教諭として日々幼児教育の向上に努めて行きたいと思っています。また、子どもたちのために毎日笑顔で元気一杯の先生になりたいと考えています。

〔八千代キャンパス学生支援課
十条台キャンパス学生生活課〕

大学院

日本心理学会優秀論文賞受賞



大学院 心理学研究科の石村郁夫助教（心理学）、臨床心理士

（士）が、社団法人日本心理学会より平成21年度の優秀論文賞を受賞しました。

日本心理学会は、日本の心理学に関する中心的な役割を担っている学会で、80年を超える歴史を誇っています。

受賞論文は「Flow experience in everyday activities of Japanese college students: Autotelic people and time management(日常生活の様々な活動におけるフロー体験―自己目的な人と時間管理)」というものです。

Japanese Psychological Researchの51巻の47―54頁に記載されています。論文内容は、目の前のことに夢中になり、時間があつという間に過ぎ去るフロー(Flow)体験に注目したものです。従来の研究では、目の前のことに夢中になると周囲が見えなくなり、他のことをおろそかに

してしまうといったフロー体験の弊害の側面についてよく報告されてきました。



すなわち、一時的な快楽へ耽溺することや、ビジョンや見通しのない没頭は自分を苦しめるものにつながり、場合によっては周囲との関係

を破綻させることにもなり得るといえるものです。この研究では、大学生323名を対象にし、こうした特定の活動のみに一極集中するタイプではなく、日常的にフロー体験をしやすい人に備わっている時間管理能力と目標指向性を検討しました。その結果としては、日常的にフロー体験を体験できる人は、例えば3年から5年の長期的な目標やビジョン

に向かう対局的な見通しを持ち、その中でうまく自分のエネルギーを分配し、時間を管理する能力に長けており、様々な生活領域で最適な関わり方をする事が分かりました。

NHK総合テレビ

「あさいち」に出演

また、石村郁夫先生は、NHK総合テレビで放送されている「あさいち」に出演しました(平成22年11月1日(月)放送)。この日の放送は番組特集として、「人生を変える驚異のほめパワー」というテーマが取り上げられました。ほめることには様々な効果があり、この番組の中では、特に、

- ① 夫婦のコミュニケーションを改善する
- ② 脳の線状体が反応し、ドーパミンが放出される
- ③ ダイエットに成功する
- ④ 育児が楽しくなる

ことが紹介されました。その中で、育児に悩む女性が「ほめ日記」を取り組むことで自信を取り戻し、子育てにおいても楽しめるようになる様子が放映されました。その後、石村先生が平成22年7月18日(日)に日本ヒューマン・ケア心理学会で発表した「ほめ日記」に関する研究を紹介しました。この研究では、大学生9名を対象にし、1ヶ月の間、毎

日、自分をほめる課題に取り組んでもらった結果、その課題の前後で過度に不安になるという強迫傾向が減少し、困難な状況になっても乗り越えようとする力が増加していることが示されました。また、ワンカットでしたが、東京成徳大学八千代キャンパスの全景が映されました。「日本は恥の文化である」ように、自分のことをほめることに抵抗があるように思いますが、日記という形式で誰にも見られることなく、誰でもすぐに行えることはこの方法の良い点であると言えます。ぜひ興味があったら、「ほめ日記」を始めてみてください。

臨床心理士資格認定

本学は日本臨床心理士資格認定協会より、第1種指定大学院として指定を受けています。本年も、受験資格基準を満たす大学院修了生29名(平成21年度以前の修了生も含む)が、臨床心理士資格審査を受験し24名が合格しました。指定大学院として高い合格率を誇っています。

必見 ホームページが

おもしろい！

八千代キャンパスでは、ホームページ(HP)を通じて、学生や教職員の活動の様子について、日々精力的に情報発信しています。

学部・学科の「お知らせ」コーナー

学部・学科のサイトでまず注目すべきは「お知らせ」コーナーです。ここでは、授業風景、学外体験学習、課外活動、卒業生からのたより、教員のコラムや活動、学科の講座・講演会の案内などの情報を掲載しています。

特に注目すべきは、学外体験学習や教員のコラム、卒業生からの便りです。学外体験学習では、学生たちのイキイキとした姿がとても素敵です。教員コラムも「名言で学ぶスポーツの心理」「集中力の法則」「基礎演習なんでもコラム」など、様々なシリーズものが生まれ充実してきました。そして、とても印象的なのは、福祉心理学科の「卒業生リレー」です。すでにリレーは55人目となりました。卒業生の活躍している姿を見ることができ、教職員一同、大変勇気づけられています。

様々な「ブログ」

各学科は、公式サイトほかに独自のブログも開設しています(サイト右横にバナー)。「秋山秀一の旅行術」「伝統文化★資料室」「文化を伝える人々」「国際言語文化研究室だより」「国際交流フオトアルバム」・・・と盛りだくさんです。ここでは、「お知らせ」コーナーでは漏れた学生・教員の番外編の情報や学科のこだわり情報が多数掲載されています。学科の魅力を一段と高めるものとなっています。

動画もいっぱい

動画もいっぱいです。「副学長 國分康孝の談話室」「イ・ユニのハングルの部屋」「海保博之の心を元気にする習慣作り」などは、10〜24回という連続講座です。それぞれ、専門分野の研究内容を、とてもわかりやすくお話ししています。学生たちの動画も必見です。学生たちによる学科紹介、大学紹介、サークル紹介などなどです。動画出演、さぞかし緊張するのかもしれないが、いま時の学生たちはなかなかどうして堂々としたものです。ぜひご覧下さい。



http://www.tsu.ac.jp/movie-blog/index.html

便利な「トータルゲート」

情報満載のHPですが、不慣れた方には入り口探しが大変です。そこで便利なトータルゲートを用意しました。

①大学のトップページ右横の「TSUムービー&ブログ」(写真掲載)からは、すべての動画やブログが一覧できます。

②人文・応用心理学部サイト右横の「Campus Archives」は、「お知らせ」コーナーに掲載されたバックナンバー記事をすべて項目別に整理していて便利です。

今後の予定

HPをさらに充実させるために、新企画を推進中です。

①「動画でオープンキャンパス」は、普段のオープンキャンパスのメニューを動画で提供しようというものです。

②「TSUミニミニ放送局」は、ユーチューブを使って学内の情報をライブで配信しようというものです。ライブ放送ということで、私たちもドキドキです。頑張ります。

このように、八千代キャンパスのHPは情報がいっぱいです。さらに楽しい情報を発信していきたいと思っています。ぜひご期待下さい。

経営学部

懸賞論文の実施

経営学部は「社会に真に役立つ人物の養成」を標榜し、ビジネス社会における諸問題を発見・解決できる能力の育成を目指す「実学教育」を実践しています。現実を直視しながら具体的・実証的な作業を通じて、学問に現実の息吹を与えるという経営学部の理念を活かす取り組みの一環として、1年生を対象としたビジネスアイデアコンテストを昨年度より実施していますが、今年度は、それに加えて経営学部全学生を対象とした「懸賞論文」を実施することになりました。

この懸賞論文の目的は、学生が主体的に取り組むことで自分を成長、進化させ、実社会で即戦力となる力を身につけていくことにあります。論文作成のプロセスにおいて技法の会得や先生とのコミュニケーションを図るなど、人間形成の場となるように企画されています。論文作成に向けての指導は、卒業論文への足掛かりとなるように配慮し、学生は関心を持って、そのプロセスを楽しみながら身につけることがで

きるようになります。

懸賞論文に参加した学生は、論文作成の各プロセスで多くのことを体験し、たくさんのものであることができるものと確信しています。このプロセスを経た者だけが味わうことのできる喜びを、より多くの学生の皆さんにぜひ体験してもらいたいと願っています。

【懸賞論文の実施概要】

論文の議題…経営に関係するもの
スタイル…20,000字以内
応募方法…個人またはグループ
締め切り…12月22日
結果発表…平成23年1月7日

表 彰…最優秀賞10万円、優秀賞5万円、佳作3万円。表彰式は平成23年1月12日黒雅叙園にて。

【結果】

最優秀賞1点「学生の視点から見たアウトレットモールの今後の戦略展開」中野佑亮（2年）・武井梨沙（同）・戸田好美（同）・渡辺優奈（同）
優秀賞1点「世界を巻き込むファッションビジネス」戸田成末（2年）
佳作1点「日本航空破綻の原因研究」大津好永（2年）

子ども学部

「子ども学」とは（リレー掲載①）

「質の高い幼児教育・保育を」

准教授 永井 由利子



英国が20世紀末から始めた幼児教育の効果に関する縦断的調査

の結果が昨年2月に出された。このことは、8月に「遊育」という幼児教育機関紙に掲載された。おおむね次のような内容である。

「質の高い幼児教育を受けた子どもはその成果が小学校入学後も継続しており、11歳時点での成果が表れている。したがって、質の高い保育の効果は小学校以降の教育や育ちにも大きな影響を与えている。」ということだ。

私は、公立幼稚園で長く幼児教育に携わってきた。国公立幼稚園長会が数年前に作成したリーフレットには国公立幼稚園で目指す幼児教育を「あと伸びする力」というキャッチフレーズで表し、目の前の早期教育ではなく遊びを十分楽しみ遊びこむことによって培われる知的好奇心や意欲、人とかかわる力や自己抑制力等「生きる力」を育て

ることであると示されている。いま、保育園、幼稚園、認定こども園と様々な就学前の子どもの保育、教育の場があるが、新システムへの移行も考えられている中で、制度の枠組みだけを変えるのではなく、質の高い保育や教育をどの園でも実現できることが求められているのではないだろうか。

幼児教育の質の高さを維持するためには研修や園内研究が欠かせない。今年度園内研究に携わってきた某市の公立幼稚園では環境の構成や教材研究に力を注ぎ、公開保育当日には子どもが随所で夢中になって遊ぶことのできる環境が工夫され、教員の資質向上につながった。

卒業していく学生には、今後の幼児教育の担い手として、保育園、幼稚園、こども園いずれの場においても、質の高い保育、教育を目指す人になってもらいたいと思っている。「子ども学」は、社会や家庭に向けて多くのことを発信すると同時に、現場に根を張り真に子どもたちに質の高い保育、教育を提供できるために役立つ学問として貢献できるものでもありたいと思う

短期大学 言語文化「コミュニケーション科」

言語文化「コミュニケーション科」

樋口信夫言語「ミ科長、イタリアでのシンポジウム In the East and the West, Body and Spirit in Writing」招聘！



東洋、西洋、世界各国で使われる文字に対する意識とその芸術的な表現に関する国際シンポジウムが、

昨年5月26～28日の3日間、イタリアのベネチアで開催されました。シンポジウムを主催するCini財団から「日本の書道を紹介してほしい」との依頼が樋口先生にあり、発表者として参加されました。樋口先生の書道パフォーマンスは特に評判でアンコールもあったそうです。なお、シンポジウムのポスター、パンフレットには作品（心虚師竹）が採用され、現地のデザイナーがイタリアの国旗を意識して、文字に赤と緑を用い、墨の黒の表現が真っ赤になっっています。（写真上は、会場となった教会の全貌で、写真下はパンフレットの表紙です。）

第27回読売書法展入選！

第27回読売書法展東京展は、六本木の国立美術館、池袋のサンシャイン文化会館の両会場で8月20日から29日まで開催されました。国内では最難関、最大規模の公募展で、短大生の入選は極めて難しいものです。その難関の読売展に2年生の石橋理沙さんと岩城志緒里さんの2名が入選いたしました。

これまでの入選者は、楷書か行書の作品が多かったのですが、めずらしくともに隷書の作品でした。（写真・左が石橋さん・右が岩城さん）。



石橋さんの作品は各文字が整然と配置され、しかも線に柔らかなツヤのあるしつとりとした表情を持つています。岩城さんの文字には骨格の確かさがあり、一本一本の線に力強さのみなぎった堂々たる力作でした。

幼児教育科

1年生 学外研修旅行

10月2日、1年生の学外研修旅行が実施されました。

この研修旅行は必修科目「幼児教育基礎演習」に組み込まれたプログラムであり、全員が受講するものです。5月に実施された河口湖での宿泊研修に続き、今回は土曜日の授業終了後を利用した日帰り研修として、東京ディズニーランドホテルにおけるマナー研修およびシルク・ドゥ・ソレイユ「ZED」鑑賞を行いました。



今回の学外研修プログラムは、以下のふたつの目的により企画されたものです。

1. 学生同士の親睦を図り教員とのコミュニケーションを深めるとともに、団体行動を通して社会人としてのマナーを身に付ける。
 2. 芸術作品や児童文化に触れ、保育者としての教養を高める。
- 今回の研修旅行を通して、近い将

来の社会人・保育者として基本的なマナーを身につけ、感受性や表現力を豊かにしていったってほしいと願っています。

第78回独立展 奨励賞受賞

杉本亜鈴講師が「第78回独立展」において奨励賞を受賞し、10月13日、六本木の国立新美術館で授賞式が行われました。「独立展」は、毎年10月に開催される日本有数の絵画公募展です。全国公募のうえ審査で選ばれた2mクラスの絵画作品600点あまりが国立新美術館に展示されました。



ニュージーランドの生徒が来校

9月27日～30日の4日間、ニュージーランド（以下NZ）にあるHenderson High School（以下ヘンダーソンHS）の生徒10名（引率教員2名）が、本校での学校体験とホームステイをおこないました。

ヘンダーソンHSは、NZ最大の都市であるオークランドの中心部から車で20分程のヘンダーソン地区にある共学の公立学校で、一貫部の3年生が3学期におこなっているNZ学期留学の現地受け入れ校の一つとして、第5回（平成19年度）より本校生徒を学期留学生として受け入れています。

今回のプログラムは、日本語の授業を選択している生徒を対象としたもので、同校で日本語の授業を担当されている Heidi（ハイディ）先生が企画・立案・引率まですべてこなしていました。ハイディ先生は、学生時代に日本語を学び、その後2年間 A.L.Tとして日本で教壇に立っていたという経歴の持ち主で、自分が指導している生徒を連れて日本を訪れることが夢だったそうです。

今回、ヘンダーソンHSとしては初めての訪日旅行で、日程中4日間予定している日本でのホームステイと学校体験を、ぜひ東京成徳大学中学校でお願いしたいという申し出をいただきました。本校としてもぜひ協力できればと、9月になってからの連絡ではありましたが、ホストファミリー協力をお願いを在校生徒に呼びかけたところ、あっという間に引き受けたいという申し出が集まり、ちよつと遅れて申し出たくれた生徒には断らなければならぬという状況でした。



琴の合奏体験

文化祭の後片付けと代休が続く期間でしたので、学校体験は9月29日の1日しかおこなえませんでした。1時間目は全員で校舎内見学、2時間目は5年生の体育に混ざり、男子はバドミントン、女子はサッカー、3時間目は音楽科塚田教諭指導のもと、和室で琴を使った「さくらさくら」の合奏体験をおこないました。琴の指導には、3年生の木内麻由さんも加わり、最後に見事な演奏を披露して、ヘンダーソンHSの生徒だけでなく先生方をも驚かせていました。4時間目からはホストファミリーの生徒と同じクラスで、それぞれの授業と一緒に受けました。いくら日本語を選択している生徒たちであっても、授業をほとんど理解できるはずはありませんが、日本の学校の授業の雰囲気や、NZとの違いを感じることができて、とても興味深かったと感想を述べていました。

東京を離れる日は、中学生は実力テストの日にあたり、朝学校に集合した時点で、中学生とはお別れとなりましたが、ホストファミリーの生徒は泣いてしまい、ヘンダーソンHSの生徒になぐさめられていました。朝のラッシュ時に東京駅までの移動でしたから、高校生には東京駅まで同行してもらい、わざわざ足を運んでくださった保護者と一緒に、次の目的地である広島に向かう新幹線を見送りました。たった4日間なのに、最後はやはりみんな涙のお別れ、きつと素敵な出会いができたのだらうなど、うらやましく思いました。

ホストファミリーを引き受けてくださるご家庭は、いつも無償で協力していただいております。日本と本校を訪れる他国の学生に、少しでも良い体験をしてほしい、させてあげたいという思いから、本当によく尽くしてくださるその姿勢には頭が下がります。と同時に、そういう思いを持つてくださる方々がこんなにも多くいることを担当者としては誇りに思い、これからますます国際交流活動が盛んにおこなわれることを期待しています。



移動でしたから、高校生には東京駅まで同行してもらい、わざわざ足を運んでくださった保護者と一緒に、次の目的地である広島に向かう新幹線を見送りました。たった4日間なのに、最後はやはりみんな涙のお別れ、きつと素敵な出会いができたのだらうなど、うらやましく思いました。

高等部校舎耐震補強工事の実施

平成7年の阪神・淡路大震災以降、地震対策の必要性が指摘され、特に学校施設は適切な耐震補強を施すことが急務であると言われ、改善が促されています。

当校では、校舎の耐震診断の結果、「構造耐震判定指標」を下回ったのが、1号館の「南側の棟」と2号館の「西側の棟」および3号館でした。

そこで、夏休みを利用して、平成21年度に1・2号館、平成22年度に3号館の耐震改修工事を実施し、この度完了しました。



補強が完了した校舎

〈平成21年度夏期工事〉

1号館・2号館の耐震改修工事

●外構工事(先行工事)

1号館の東面(グラウンド側)に鉄骨にて補強を施す設計ながら、その基礎となる箇所には既設の排水管が埋設されており、それが施工の障害となるため、まずはこれを撤去する必要あり。その代わりとなる排水管・排水枒を、新たに正門からの通路敷に敷設し直す盛り替え工事を実施。

●1号館・南側棟 構造

鉄筋コンクリート造・4階建 塔屋 1階校舎東面(グラウンド側)・外付け鉄骨ブレース耐震補強工法 1階〜3階の2スパン(2教室分)の室外にV字型に組んだ補強鉄骨を施工。鉄骨部分はアルミパネルにて化粧カバーを施す。

校舎西面外壁(裏側)・・・増し壁工法 1階〜4階の南北2カ所の階段・踊り場(通称C階段・D階段)のサッシ窓面を縮小して、且つ外壁の構造を従来の倍の厚さにて施工。

校舎内部・・・増し壁工法・鋼板巻き工法 1階〜2階の教室・居室間の区画壁面を、配筋を施して倍の厚さに

〈平成22年度夏期工事〉

3号館の耐震改修工事

施工して補強。生徒玄関からのパティオ(中庭)と下足室の柱を「鋼板巻き」にて補強。

●2号館・西側棟 構造

鉄筋コンクリート造・5階建 塔屋 1階

従来・・・1階は、廊下に面した3カ所に展示用のブースが設置されており、前面はガラスの引き戸で、居室とブースの境界壁面は、軽量鉄骨下のボード張りの構造で施工。また、二階から四階においての各教室と廊下の間仕切りは、スチールパーテーションの組み込み造で各々強度不足。

補強・・・1階は事務室と校長室の区画を、2階から3階は2教室分(2スパン分)の区画を補強箇所を対象として、新規に4本のコンクリート柱を打設。4階は1教室分(1スパン分)の区画に2本のコンクリート柱を打設。各々新設の柱と柱の間は、配筋を施したコンクリートの「厚壁構造」で施工して強度を増す。

【結果】「耐震補強設計構造計算」において構造耐震判定指標を上回る結果となり、「所要の耐震性を確保している」との判定を得ました。

●3号館 構造

1階〜3階・鉄筋コンクリート造 4階(増築部)・鉄骨造

補強・・・1階は調理準備室・調理教室において2階は2教室分(2スパン分)の区画を補強箇所として、前年度2号館と同様の工法にて、居室と廊下の境界へ新規に4本の柱を打設し、その柱間を厚壁構造で施工、強度を引き出す。また、1階から3階において、各所を「増し壁工法」で補強。4階のコンピュータ教室は鉄骨造のため、外壁側・廊下側あわせて8カ所に鉄骨柱を新設し、かつ梁とスチールパネルをも設け補強の基礎とする。そこへ逆V字型の鉄骨ブレースを室内側へ4カ所施工して構造体の補強が完成。

【結果】前年度と同様、「所要の耐震性を確保している」との判定を得ました。

これをもって、高等部の校舎は、構造的には地震に耐えられる強度になりました。これからは、現在の社会で多用されている「安全・安心」を意識した利用と運用を心掛けることが肝要と思われれます。

満足度100%をめざして

昨年から夏休み中のPTA支部会時に、保護者アンケートを実施しています。質問項目は教職員の指導力・熱意や使命感についての満足度、生徒指導・部活動・進路指導・PTA活動の取り組みについての満足度を聞いています。結果については別表をご覧ください。おおむね、満足度は80%台ですが、これからも満足度100%を目指して生きたいと思いま

好評だった中学校への「出前授業」

地域社会に開かれた学校を目指している本校では、今年から地元深谷市内の中学校に「出前授業」を実施しています。10月5日の幡羅中学校には、英語科から松浦・中里・井上の各先生方、深谷南中学校には、数学科高橋・理科山田の各先生方が、10月6日の深谷南中には、数学科木村・理科山下の各先生方を派遣しました。ここで当日の中学生による授業感想を紹介します。

平成22年度：PTA 保護者アンケート	
集計数 225	
1. 教職員の指導力について満足度は？	
①十分に満足+②満足	84.9%
2. 教職員の熱意・使命感について満足度は？	
①十分に満足+②満足	90.2%
3. 生徒指導に対する取り組みについて	
①十分に満足+②満足	89.4%
4. 部活動に対する取り組みについて	
①十分に満足+②満足	67.6%
5. 進路指導に対する取り組みについて	
①十分に満足+②満足	75.1%
6. PTA 活動に対する取り組みについて	
①十分に満足+②満足	82.7%
7. 施設や設備について	
①十分に満足+②満足	83.1%

理科：山下先生の授業を受けて

「明るく元気で声が大きく、とても面白い先生でした。授業内容も例えで犬とか血液型を使っていたので、とてもわかりやすく、興味がわくような教え方でした。今までよくわかっていなかった遺伝のしくみが、この授業を聞いてわかるようになった。とてもうれしかったです。今日はありがとうございました。」

数学科：高橋先生の授業を受けて

「明るく元気で、笑顔の溢れるとても良い先生でした。授業の内容もわかりやすく、楽しい教え方でした。数学が苦手な私も楽しいと感じることができました。今日の授業は大学受験やこれからの役立つと思います。今日は実際に先生の授業を受けて良かったです。ありがとうございました。」

理科：山田先生の授業を受けて

「クイズ形式で授業をやるところがとても面白かったです。原子の大きさが考えられないほど小さかったのには、びっくりしました。中学校の授業よりも、もっと詳しく原子のことが知れたので良かったです。さらに、米などを使って私たちに分かりやすく説明してくれました。理科は苦手だったけど、先生の授業はと

ても分かりやすく、面白かったです。楽しく授業ができました。」



理科 山田淳一先生の出前授業

英語科：井上先生の授業を受けて

「とても面白かったです。英語がこんなに楽しいものだとは思わなかったです。『単語』小人』の気持ちを大切に、明るく楽しい気持ちで英語を理解できるように頑張ります。また機会があったら、井上先生の授業を受けたいです。ありがとうございました。」

他の生徒の授業感想もみな好評でした。来年度も、本校の先生方の魅力がある授業を公開して行きたいと考えています。

幼稚園

クリスマスコンサート

12月6日に今回で5回目のクリスマスコンサートが開催されました。

学園のヴェリタスホールにはクリスマスツリーも飾られ、クリスマス一色です。



お母さんコーラス「りんごの木」

お母さんコーラス「りんごの木」の由来は、幼稚園に先代の木内四郎兵衛園長先生が植えてくださったりんごの木です。庚申通りに面した場所に植えてあります。今年是天候に恵まれ、赤く色づいたりんごがたわわに実り、11月には園児たちが一

口ずつ味わうことが出来ました。この木にあやかり幼稚園の皆さんが、沢山の実り大きい未来を願いを込めコーラスの名を「りんごの木」としたのです。

今年も、恒例となった保護者向けのクリスマスコンサートも第一部では声楽家で母親コーラスのご指導もされている榎本太麻子先生のステージで、声量のある素晴らしい歌声がヴェリタスホール中に響きわたり、保護者一同は酔いしれておりました。また、第二部では、母の会豊川会長、大武教頭、梶山主任のフルート演奏に続き、りんごの木のメンバーは素敵なハーモニーにのせ童謡やクリスマスソングといろいろなジャンルに挑戦し、会場の方とも一緒に歌い心がひとつになりました。母親支援の一環で始まった母親コーラスも結成4年目となり、メンバーの絆を深く充実感を味わい、これらの活躍が期待されます。

保護者の皆様は、一足早い素敵なクリスマス満喫しました。現在メンバー募集中ですので、ご興味のある方はどなたでもご参加いただけると思います。

第二幼稚園

わくわく広場

毎年夏季保育の一環として「わくわく広場」を行っています。これは短期大学より先生を指導者としてお招きして、夏休みの一日を親子で楽しく過ごしてもらおうのが目的です。

8月26日は、年長組の「わくわく造形広場」でした。講師は杉本亜鈴先生。今年は「大型絵画制作」と「エコバック作り」の2つを行いました。ホールいっぱい大きな絵と自分だけのエコバックができあがり、歓声があがりました。



わくわく造形広場

次の8月27日は、宮下恭子先生をお迎えして年少組の「わくわく体操広場」でした。親子でたくさんスキップをとりながら、柔軟体操をしたり、タオルを使ったゲームなどをして盛り上がりました。



わくわく体操広場

3日目の年中組「わくわく音楽広場」は、8月30日に土屋朱帆先生をお迎えしました。ラップの芯を使ったり、歌をうたったりして、楽しいひとときを過ごしました。

今後も本園では附属幼稚園としての特性を活かして、大学・短期大学との連携を図りながら、よりよい保育活動を推進していきます。



わくわく音楽広場

クラブ活動

大学

チームスローガン

「3部から2部昇格へ」の実現

男子バスケットボール部

SEAHAWKS



勝1敗の好成績を収めました。得点差により惜しくもリーグ準優勝となりました。

11月9日から3日間にわたり行われた2部9位の立教大学との入替戦は1勝1敗。雌雄を決する第3戦はまさに白熱のデットヒート、残り58秒まで同点。最後に競り勝ち強豪が勢ぞろいするなか見事2部昇格の快挙を成し遂げました。

東京成徳大 ○ × 立教大

94 | 79 (11月9日)
63 | 91 (11月10日)
80 | 76 (11月11日)

お前らは最高の仲間だ

主将 伊藤大地

「川北先生、僕達は2部に上がりたいです」この日から、僕達の挑戦が始まりました。掲げた目標は、そんな簡単に達成出来る目標じゃないことは、チームのみんなが分かっています。また、チームのキャプテンを務めることになった僕には、今までに感じたことのない重圧感が芽生え、このチームを引っ張って行くことに不安を感じていました。しかし、こんな僕をチームのみんなは信頼してくれ、助けてくれました

時々、ぶつかり合ったり、嫌になつて投げ出したいと思う事もありました。そんな僕をずっと支えてくれたのは、同じ日に入学した6人の4年生達です。いつも笑わせてくれる奴、バイトが忙しい奴、オシャレな奴、いつもお腹をかいてる奴、真面目な奴、黄色いTシャツを着ている奴、僕はこの仲間に出会えた事を、本当に感謝しています。そして声高に叫びたい、ありがとうございます。

副キャプテンの本多純平君は、その4年生のうちの一人で、プレイでチームを引っ張り、練習では人一倍努力し、ひたむきに頑張るタイプ。入替戦第3戦、試合の流れを引き寄せるSEAHAWKS伝統のフォーメーション、10で決めたシュートは、彼の努力によって成し得た渾身のワンショットでした。振り返ると、彼には本当に助けられたと切実に感じています。

この仲間と臨んだ入替戦は、一戦一戦が最後になると思うと、とても複雑に感じました。1勝1敗でむかえた最終戦では、みんなに「ここまで来たんだからもうやるしかない、最後は、バスケットを楽しもう」と伝えました。対戦相手の立教大学はさすが2部のチームでしつかりと

したディフェンスから、迷いのないシュートで、なかなか試合の主導権を握らせてくれませんでした。残り4分で7点負け、残り58秒まで同点というクロスゲームは、どちらが勝つてもおかしくない展開でした。しかし、僕たちには自信がありました。僕たちが一番厳しい練習をしている、だから負ける訳がない、この強い思いが、立教大学より勝っていたと感じています。結果は80 | 76。その瞬間、僕たちは2部昇格を勝ち取りました。

来年度は、さらに高いレベルでの戦いが待っています。後輩達には成徳魂で立ち向かってほしいです。ご父兄の方々ははじめ、OBの皆様、大学の教職員皆様の協力、応援のおかげで悲願を達成することができました。本当にありがとうございます。今後とも、東京成徳大学男子バスケットボール部をよろしく願います。

最後になりますが、川北先生と一緒に流した涙は、僕達の宝物です。先生、チームのみんな、本当にありがとう。

お前らは、最高の仲間だ！

(臨床心理学科4年)

第86回関東大学バスケットボールリーグ戦（関東大学バスケットボール連盟）3部1次リーグにおいて本学SEAHAWKSは駒澤大学と同じ15

クラブ活動

大学

男子バスケットボール部「SEAHAWKS」

第 86 回関東バスケットボールリーグ 3部 1次ステージ …………… 準優勝

バレーボールサークル

第 46 回八千代市民体育大会 …………… 準優勝

高校

女子ラクロス部

第 8 回中高女子ラクロス秋季関東大会 …………… 優勝

女子バスケットボール部

第 41 回全国高校バスケットボール選抜優勝大会 …………… 3位

バトン部

第 45 回マーチングバンド・バトントワーリング関東大会

バトントワーリング部門・高等学校の部（バトン編成） …………… 金賞

第 38 回マーチングバンド・バトントワーリング全国大会

バトントワーリング部門・高等学校の部（バトン編成） …………… 銀賞

男子サッカー部

全国高校サッカー選手権大会都予選Bブロック …………… ベスト8

深谷高校

第 63 回全日本バレーボール高等学校選手権大会

埼玉県大会二次予選女子 …………… ベスト4

中学校

吹奏楽部

東京都吹奏楽コンクール …………… A組 銅賞

女子バスケットボール部

東京都中学校バスケットボール新人大会 …………… 準優勝

男子卓球部

東京都私立中学高校大会 …………… 団体第3位

剣道部

北区中学校秋季剣道大会男子 …………… 優勝

バトン部

第 45 回マーチングバンド・バトントワーリング関東大会

バトントワーリング部門・中学生の部 …………… 金賞

が、女子100kgと女子走幅跳の2種目に出場し、女子100kgでは14秒45で見事銀メダルを獲得しました。

広州2010アジアパラ競技大会 女子100kg銀メダル

日本代表としての高桑早生さんが、女子100kgと女子走幅跳の2種目に出場し、女子100kgでは14秒45で見事銀メダルを獲得しました。

（国際パワーリフティング協会主催）の日本代表選手としてパワーリフティング部の野口裕太さん（3年生）が出場し、6位に入賞しました。スクワット、ベンチプレス、デットリフトのトータルは555kgと自己ベスト575kgには及びませんでした。「競技を楽しめた」とのことです。なお、優勝は784kgの世界新記録でアメリカのノリス・ジェッセ選手が優勝しました。



チエコ共和国・ピルゼン市で行われた『2010年世界ジュニアパワーリフティング選手権』

深谷高校
世界ジュニアパワーリフティング
選手権 82・5kg級にて6位入賞

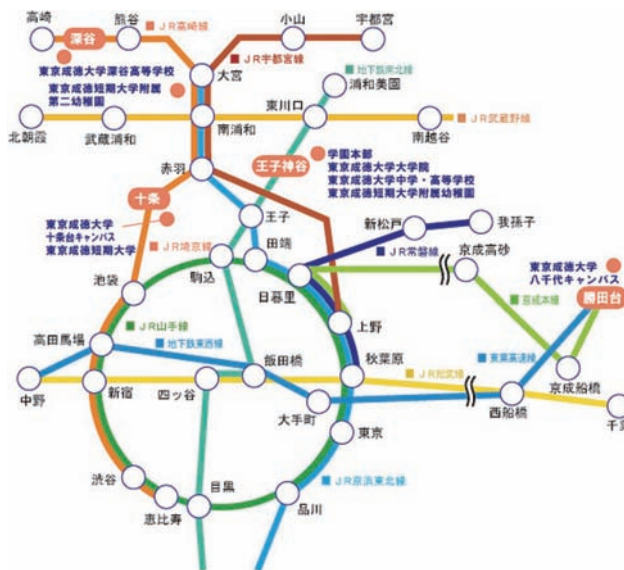
平成 23 年入試カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1月						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22 ・高校 ・深谷高
23 ・大学 ・短大	24	25 ・深谷高	26	27	28	29 ・大学院 修士課程
30 ・大学院 博士後期課程	31					

日	月	火	水	木	金	土
2月		1 ・大学 ・短大 ・中学	2 ・中学 ・深谷高	3 ・中学	4 ・中学	5
6	7	8	9	10 ・高校	11	12 ・高校
13	14 ・大学 ・短大	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28 ・大学					

日	月	火	水	木	金	土
3月		1	2	3	4	5
6	7	8	9 ・大学(人文、 応用心理の み)	10	11	12
13	14 ・深谷高	15	16	17	18	19
20	21	22 ・大学(人文、 応用心理の み)	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

※最新の情報については各校ホームページ等でご確認ください。



学校法人 **東京成徳学園** <http://www.tokyoseitoku.ac.jp>

東京成徳大学大学院 <http://www.tsu.ac.jp/gra> 電話 03-3927-4116

東京成徳大学 <http://www.tsu.ac.jp> **PC**
<http://www.tsu-mobile.com> **携帯**
 人文学部 応用心理学部 八千代キャンパス入試・広報センター
 子ども学部 経営学部 十条台キャンパス入学課



電話 047-488-1000 (直通)
 電話 03-3908-4566 (直通)

東京成徳短期大学 <http://www.tsc.ac.jp> **PC**
<http://www.tsc-mobile.com> **携帯**
 十条台キャンパス入学課



電話 03-3908-4566 (直通)

東京成徳大学中学・高等学校

中高一貫部 <http://www.tokyoseitoku.jp/js> 電話 03-3911-2786
 高等部 <http://www.tokyoseitoku.jp/hs> 電話 03-3911-5196

東京成徳大学深谷高等学校 <http://www.tsfh.jp> 電話 048-571-1303

東京成徳短期大学附属幼稚園 <http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind> 電話 03-3911-6337

東京成徳短期大学附属第二幼稚園 <http://www.tokyoseitoku.ac.jp/y-kind> 電話 048-854-2151

東京成徳スイミングスクール 電話 03-3914-2383

学校法人 東京成徳学園 〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9 TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500
 法人本部企画調査室 東京成徳広報 第29号 平成23年1月発行